

2021/HD/81分

命を奪う刑罰。  
本当に、  
知っていますか？

「罪と罰」をめぐる、  
究極の議論がはじまる

ドキュメンタリー映画

# 望むのは 死刑ですか

考え悩む“世論”  
オウム“大執行”と私

日時 令和4年3月26日(土) 14時~開演(開場13時30分)  
場所 シビックセンター さくらホール(徳島市元町1丁目24番地)  
入場無料・予約不要(先着100名) 映画上映後に監督のトークを予定

揺れる、被害者側。  
痛む、加害者側。



友を殺した相手が  
死刑に。だが…  
(岡田尚)



問答無用で  
殺すなんて。  
(小川原優之)



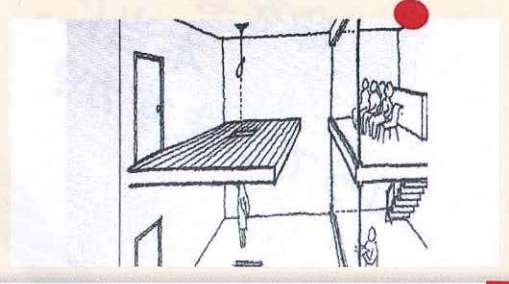
私の命も  
狙われたんです。  
(滝本太郎)



国に、裏切られた。  
(永岡英子)

# 国民の8割が死刑に「賛成」?

それが、この国の民意とされてきた世論調査の“相場”だ。とは言っても実際には日ごろ無関心なこの極刑の存在を私たちが強烈に意識させられたのが2018年夏、13人もの死刑執行だ。刑死したのは、かつてのオウム教団の教祖と幹部たち。死者29人に及ぶ凶悪犯罪への処罰だったが—わずか3週間のうちに行われた「大量処刑」は、直後の世論調査で死刑賛成が異例の減少を見せるほどの衝撃を、社会に与えた。その執行が終ってひと月も経たない、8月下旬。死刑と社会の在り方を問う映画「望むのは死刑ですか」の上映とともに、一連の特別なトークが行われた。人々が日ごろ意識しない、死刑のリアルを知る試みだ。



## 想像を超える痛み、戸惑い。そして怒り。

日替わりの語り手は3人。オウム事件の被害者側あるいは加害者側で、死刑囚らと直接向き合った「当事者」たちだ。その明かす胸中は、我々の一面的な「被害者像」「加害者像」を打ち砕くものだった。教祖を死刑から救おうとした元弁護人は、引き受けたと家族にも話せなかった現実を。入信した子どもらを取り戻す活動をする団体の中心メンバーは、その子らが凶悪事件を起こして死刑にされた痛みと、警察への憤りを。殺害された弁護士の同僚は、死刑反対の信念と報復感情との間で続けた葛藤を…いずれも語るにつれ熱を帯び、戸惑いや悔い、そして罰する側である国への不信感までも明かしていく。長時間に及んだその肉声をカメラが記録。さらに後日、殺害された弁護士と親しかった男2人が死刑を賛否に分かれて論じ合う姿をも、カメラは記録する。死刑賛成を貫く方の男は、自身もかつてオウム信者に命を狙われた「被害者」だった。集大成され映画となった4人の言葉は、強い力で問いかけてくる。あの衝撃の“大執行”は、人々に何をもちたのか？ 被害者の、真の望みとは？ そして命を奪う究極の刑罰が存在する意味とは…

### 語る人たち

#### 永岡 英子（オウム真理教家族の会）

オウム教団から子どもを取り戻そうとする親たちで会を結成し30年、今も活動中。夫は猛毒で襲撃され障害者に。子どもたちの一部が加害者となりついに死刑となる痛みを背負う。

#### 小川原 優之（麻原彰晃の元弁護人）

オウム教祖・麻原彰晃こと松本智津夫被告（当時）の弁護団12人の一人。社会に処罰感情が吹き荒れる中、複数の殺人事件を含むいくつもの犯罪について8年にわたる裁判（一審）を闘う。その後は死刑制度と深く向き合い、現在は日弁連の死刑廃止実現本部事務局長。

#### 岡田 尚（被害者の坂本堤弁護士同僚）

法律事務所その後輩だった坂本氏に、オウムから娘を取り戻したいという、ある親の相談を紹介。その後オウム問題に取り組んだ坂本氏と妻と幼い息子が失踪（1989年。殺害された）と後に判明したのを機に、オウムと対峙し続ける。坂本一家の遺族に寄り添ってきた、代弁的な存在でもある。死刑反対派だったが事件で苦悩することになった。

#### 滝本 太郎（オウム事件被害者・脱カルト活動家）

友人だった坂本氏と家族の失踪を機にオウムとの関いに没入し、訴訟や信者の脱会に今も取り組む。自らもサリンガス等で命を狙われている。教祖・麻原彰晃にだけは死刑執行をと、強く主張してきた。



主催 徳島弁護士会

徳島市新蔵町1丁目3 1

連絡先 088-652-5768